

# OSAKA UNIVERSITY 大阪大学



大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻

5.23.Thu. at Suita  
13:00~14:30

加賀 有津子 教授



「あなたが大阪大学の総長になったらとします。そのときに、阪大キャンパスで目指すべきエリアデザイン・マネジメントの実施方針と、その目的を考えてみてください」。加賀先生の出題に、学生たちは3つのグループに分かれて話し合いを始めた。エリアデザイン・マネジメントとは、近年の都市計画において注目されている考え方の一つだ。従来、都

もし自分が大学の総長になったら  
キャンパスをどうデザインする？

講義の流れ  
醍醐味

都市や地域の再生に必要な、行政やゼネコンなどの開発業者だけでなく、その地域に住む人々を巻き込んだ幅広い視点の「エリアデザイン・マネジメント」について学ぶ。エリアデザイン・マネジメントがまちづくりに果たす役割について実例を見ながら学んでいく。

住人が参加するまちづくり  
「エリアデザイン・マネジメント」という考え方

から数百円単位の寄付を募ることも膨大な資金になり、そのお金を生かして何かを試みるということもできます。自由な発想で、どんな組織を作り活動するか、話し合っ意見を出してみてください」と加賀先生。各グループで

まちづくりで大切なのは、  
人の関わるソフト面の運用

エリアデザインの手法は、大阪・梅田に2013年春に開業した「うめきた」の開発など、近年の日本の商業施設にも活用されている。その背景には、市民の価値観やライフスタイルの変化がある。1995年に起きた阪神淡路大震災後の復興事業の頃から、市民の社会参加やボランティア意識も急速に高まった。行政もNPO法や地方分権改革推進法などを整備し、「新しい公共」という考え方を打ち出している。市民が自分たちの住むまちづくりに積極的に関わることが制度的に支援されつつあるのだ。

講義では海外での実例も紹介された。荒廃して市民が誰も足を踏み入れなくなっていた公園。犯罪や麻薬取引の温床に

もなり危険地域となっていた。そこにエリアデザインの手法を取り入れ、市民がお金を出しあい警備員を雇って環境を整備。行政とも連携してパトリールする態勢を整えたと、やがて周辺で暮らす人々がお弁当を食べたり休憩するようになり、市民の憩いの場としての機能を取り戻した。これまでもまちづくりは建物や空間などのハード面を中心に考えられてきましたが、人の行動を予想したソフト面の運用を考えることがとても大切なんです」と加賀先生は語る。

※国鉄民営化で売却が決まった貨物駅の跡地の開発区域。商業施設やホテルやオフィス、高級マンションなどが立ち並ぶ。

## VOICES 学生の声 of University Students



南 愛さん(左)  
大学院工学研究科  
ビジネスエンジニアリング専攻  
学部では土木を勉強していました。まちづくりのおもしろさは、工学の知識でモノづくりをしながら、人の生活に寄り添って役立てることだと思います。卒業後は行政に入って、都市計画の仕事に従事したいと考えています。

上地 寛尚さん(右)  
大学院工学研究科  
ビジネスエンジニアリング専攻  
今日の講義の「自分が大学の総長になったら」という課題について考えてみるのがおもしろかったです。地域住民の人たちが気軽に訪れるためにはどうすればいいか、「開かれた大学」というテーマについて考えるきっかけになりました。

都市間競争の時代にも  
ますます重要になる「地域力」

講義のなかで日本の事例として紹介されたのが、高知県の土佐国道の整備事業だ。この地域は南海地震が起きた際に、津波で浸水する恐れがあり、災害時の避難や救助を想定して整備することが求められていた。加賀先生の研究室はこの事業にデザインコーディネーターとして参加。地域の工業高校の生徒たちや、市民ボランティア、建設コンサルタントなどの専門家によるワークショップを開催し、およそ半年間かけてアイデアを出しあった。大阪大学が開発した3次元CGによるデザイン支援システムを利用して、実際の町並みの映像に街路樹や歩道橋を置いて街のイメージを何度も検討。地理情報システムを使って、予想される浸水地域を明らかにしながら住民の避難経路なども考えた。



その結果、筆山トンネルの上にゆるやかなスロープを登って避難することができるオープンスペースが完成した。

「地域の課題を自分たちで解決する力を『地域力』と呼びます。財政難による行政サービスの合理化が進み、人口が減少していくこれからの社会では、今ある地域の資産を有効活用して地域力を向上させていくことが、日本全国で求められるでしょう」と加賀先生は講義を締めくくった。

## 大阪大学

資料の請求および  
お問い合わせ先

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1 大阪大学学生部入試課  
電話：06-6879-7097  
メール：gakusei-nyusi-dai1@office.osaka-u.ac.jp

文学部  
人間科学部  
外国語学部  
法学部  
経済学部  
理学部  
医学部  
歯学部  
薬学部  
工学部  
基礎工学部

〔沿革・歴史〕  
1724年 懐徳堂創設  
1838年 適塾創設  
1931年 医学部と理学部の2学部からなる我が国6番目の大阪帝国大学創設  
1933年 工学部設置  
1947年 大阪大学と改称  
1949年 学制改革により理・医・工・文・法の5学部を設置一般教養部設置  
1951年 歯学部設置  
1955年 薬学部設置  
1961年 基礎工学部設置  
1967年 大阪大学医療技術短期大学部設置  
1972年 人間科学部設置  
1993年 医学部保健学科設置  
2004年 国立大学法人に移行  
2007年10月 大阪外国語大と統合し、外国語学部設置

### 〔オープンキャンパス情報〕

8月5日(月) 人間科学部  
8月6日(火) 医学部保健学科 法学部  
8月8日(木) 歯学部  
8月9日(金) 基礎工学部 外国語学部  
8月12日(月) 薬学部 文学部  
8月13日(火) 工学部  
8月19日(月) 経済学部  
8月20日(火) 医学部医学科 理学部  
学部概要説明、学部入試説明、研究室見学、模擬授業等を予定。

※実施内容のタイムテーブルはこのページ、  
詳細については各学部HPにて今後順次公表いたします。



かが あつこ  
加賀 有津子先生

1987年3月 大阪大学工学部環境工学科卒業、ベンチャー企業、阪急電鉄勤務  
1996年7月 阪急電鉄在職中に大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻修士課程修了  
2001年6月 阪急電鉄退職、大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻 講師  
2002年4月 大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻 助教授  
2004年4月 大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻 助教授(2007年より准教授)  
2009年4月 大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻 教授